

スピーカーアキュライザーの導入(33)
—アナログ対デジタル(17)—

1. 始めに

前報(32)に引き続き、アナログ音源とデジタル音源の比較を行ってみます。

2. スピーカーアキュライザーSPA-7の試聴方法

スピーカーアキュライザーSPA-7の設定条件は前報(2)に述べたとおりとしますが、ケーブルの接続条件を前報(14)のとおり替えています。

その後、配信の方は、LAN iSilencer の導入(12)で報告しましたように LAN iSilencer の追加と、LAN ポート、USB ポート、HDMI ポートへのダミー端子の装着ならびに USB ケーブルへの NRF-005T 処理などを行っています。

試聴音源はラフマニノフのピアノ協奏曲 2 番とパガニーニの主題による狂詩曲に固定し、アナログ盤と STAGE+から選択します。

アナログ盤

CBS SONY FCCA 477

セルゲイ・ラフマニノフ ピアノ協奏曲第 2 番ハ短調 op. 18

セルゲイ・ラフマニノフ パガニーニの主題による狂詩曲 op. 43

フィリップ・アントルモン

ユージン・オーマンディ指揮フィラデルフィア管弦楽団

レナード・バーンスタイン指揮ニューヨークフィルハーモニー

ドイツグラモフォン MG 2197

セルゲイ・ラフマニノフ ピアノ協奏曲第 2 番ハ短調 op. 18

スヴィヤトスラフ・リヒテル

スタニスラフ・ヴィスロッキ指揮ワルシャワ国立フィルハーモニー

STAGE+

セルゲイ・ラフマニノフ ピアノ協奏曲第 2 番ハ短調 op. 18 (ライブ収録)

セルゲイ・ラフマニノフ パガニーニの主題による狂詩曲 op. 43 (ライブ収録)

ユジャ・ワン

グスターボ・ドゥダメル指揮ロサンゼルスフィルハーモニー

セルゲイ・ラフマニノフ ピアノ協奏曲第 2 番ハ短調 op. 18 (アルバム)

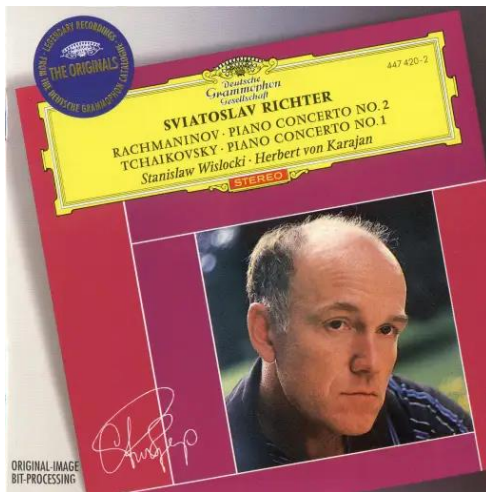
セルゲイ・ラフマニノフ パガニーニの主題による狂詩曲 op. 43 (アルバム)

ユジャ・ワン

グスターボ・ドゥダメル指揮ロサンゼルスフィルハーモニー



セルゲイ・ラフマニノフ ピアノ協奏曲第2番ハ短調 op. 18 (アルバム)
スヴィヤトスラフ・リヒテル
スタニスラフ・ヴィスロッキ指揮ワルシャワ国立フィルハーモニー



3. スピーカーアキュライザーSPA-7の試聴結果

収録曲から判断すると、リヒテルのアナログ盤と STAGE+は同じマスターのように思われます。また、ユジャ・ワンの STAGE+のライブ収録とアルバムも同じマスターかもしれませんし、別収録かもしれません。

アントルモンのアナログ盤は、アントルモンのピアノの高域が美しく、低域は柔らかく響き、華麗なピアノイズムが展開されます。オーマンディ指揮フィラデルフィア管弦楽団も、バーンスタイン指揮ニューヨークフィルハーモニーもアメリカのオーケストラらしく、切れがよくて勢いのある演奏で、力強く豊かな響きを聴かせます。

リヒテルのアナログ盤は、リヒテルの強靱な打鍵からソフトタッチの表現まで、抑揚、強弱のダイナミズムあふれる演奏です。ヴィスロッキ指揮ワルシャワ国立フィルハーモニーはラフマニノフらしいメランコリックロマンチズムに富んだ演奏です。

ユジャ・ワンのライブ収録は STAGE+を楽しむ(35)で報告していますが、ユジャ・ワンの曲芸的とも言える華麗なピアノと切れの良いドゥダメル指揮のロサンゼルス・フィルハーモニックの勢いのある演奏で、ラフマニノフのメランコリックロマンチズムというよりはダイナミックで華麗な表情が先行しています。

ユジャ・ワンのアルバムは、ライブ収録と同様の演奏スタイルですが、ライブ収録より鮮度感は後退します。

リヒテルの STAGE+のアルバムは、アナログ盤と同様、リヒテルの力強い打鍵がリアルに響きます。

4. まとめ

音源の種類と再生ルートが異なる音源が、一様にスピーカーアキュライザー導入以降、音質が向上して様変わりしています。アントルモン、リヒテル、ユジャ・ワンと変化に富んだラフマニノフを表現しており、アナログ、ライブ収録の配信、アルバムの配信とメディアによる音の違いも把握できました。

以上